

# 半導体漫遊記

40

## 湯之上隆

6月18日と19日、2日続けて大阪大学で講義を行った。18日は工学部ビジネスエンジニアリング専攻、19日は基礎工学部の電気工学特別講義、いずれも修士課程の学生を対象に、「パラダイムシフトと破壊的イノベーション」を主テーマとした講義だった。

## 大阪大学で2日連続講義

# 産業再起、若者に期待

では、技術を利益に結び付けることができない企業が続き出している。その中において、工学部にいながら経営学を学ぶことができる大阪工学部の試みは、まさに的を射ている教育だと思う。

大阪工学部の試みは、まさに的を射ている教育だと思う。

大阪工学部の試みは、まさに的を射ている教育だと思う。

6月18日と19日、2日続けて大阪大学で講義を行った。18日は工学部ビジネスエンジニアリング専攻、19日は基礎工学部の電気工学特別講義、いずれも修士課程の学生を対象に、「パラダイムシフトと破壊的イノベーション」を主テーマとした講義だった。

これらの講義は、実

専攻での講義。この修士課程の専攻は、2年間で通常の工学修士をとり、パラダイムシフトとは何か、破壊的イノベーションとは何かについて、熱心に聞き取れるも学生の自由意思に任せるというわけだ。私は、2日間続け



大阪大学工学部ビジネスエンジニアリング専攻での講義

半導体と電機産業は大崩壊した。電気自動車の普及によりクルマ産業も壊滅する危険性が

し、パラダイムシフトを引き起こすことしか手段はない。しかし、持続的技術の追求だけを行ってきた成功体験のある50歳以上の中高年層には、何も期待できない。凋落する日本を救えるのは、(皆さんのような)若者しかない。皆さんの中から、アップルのジョブズやフェイスブックのザッカーバーグのようなイノベーターが出現してほしい。

私の話に対して、若者の目は真剣だった。日本の未来は明るい、2日間を通してそう信じていることができた。(半導体技術者・社会学者)